

10/10 福地地区 令和元年度「市長と語る市政懇談会」意見・質問等一覧〔事前提出分〕

整理番号	事前意見・質問等（題名） 〔 〕内は意見等の提出があった小校区	（内容）	【回答】	担当課
1	「スマート自治体」検討の推進、西尾市と町内会の連携及び運営の改革〔福地北部〕	<p>【提案】</p> <p>政府では「スマート自治体」と称して、地方自治の経費削減や運営の効率化を目的とした改革を考えています。西尾市でも、高齢化や人口の減少などを考慮すると改革は必須と考えます。大いに検討を進めていただきたいところです。</p> <p>当地区では、東海・東南海地震に備えた対処が特に重要と考えており、市から町内会への業務の依頼や連携、役割分担等の改革が急務と考えます。町内会をさらに民主化し、経理を透明化して若い人たちが進んで参加する町内会とすることが、災害時の共助組織としての当面の重要な改革と考えます。そこで、次の2点を提案します。</p> <p>現状では、町内会長に対して市や関連団体から行事への参加や出席の要請が多く、本来の業務に支障をきたしています。見直しなど検討をお願いできませんか。</p> <p>また、市からの委託により行っている広報にしおの配布等の「周知及び依頼事務」について、市は「町内会長へ依頼する事務説明書」の中で市と町内会長個人との契約としています。これを町内会が受託している事務履行の実態に合わせた契約である町内会との契約とすることはできませんか。市は法律違反でなければ、何をしても良いという事はないと思います。</p> <p>ぜひ、ご検討をお願いします。</p>	<p>【情報政策課】</p> <p>スマート自治体のご提案につきましては、西尾市においても、市民サービスの向上と効率的な行政運営を実現するスマート自治体への転換を目指し、5月に「西尾市スマート自治体推進プロジェクト」を設置しました。</p> <p>現在、AI技術を活用した問い合わせの自動応答や、パソコンの処理を自動化する技術であるRPAを活用した事務の自動化などを検討しているところであり、来年度以降、可能なものから順次導入してまいりたいと考えております。</p> <p>【地域つながり課】</p> <p>また、町内会長の業務は見直しをこれまでも行っており、広報の掲載記事と同じ内容の託送物は取り扱わないこととする、託送物は可能な限り全戸配布から回覧に切り替える、託送物が集中する月は前後に分散するなどの負担軽減を図って参りました。</p> <p>来年度からは広報を紙面のリニューアルに合わせて、発行回数を月2回から1回に減らす予定であります。今後は市及び市の関係機関から町内会長に依頼する業務について調査し、見直しを働きかけてまいりたいと思います。</p> <p>また、町内会長との委託契約につきましては、町内会との契約ではなく、町内会の代表者である町内会長と契約しているところでございます。過去に数件、同じ内容の相談をいただいておりますが、契約に関しては現行の市の規則に基づいて契約していることで問題ないことを確認しております。</p> <p>市内には400を超える町内会があり、町内会長の仕事も町内会によって様々であります。例えば、広報等の配布は、町内会長自らが行っている町内会もございませう。町内会事務を統一的に捉えることは難しいと考えますので、今後も、これまで同様、町内会の代表者である町内会長と契約し、その業務に関しましては、各町内会の方針で進めていただきたいと考えております。</p>	情報政策課 地域つながり課

10/10 福地地区 令和元年度「市長と語る市政懇談会」意見・質問等一覧〔事前提出分〕

整理番号	事前意見・質問等（題名） 〔 〕内は意見等の提出があった小校区	（内容）	【回答】	担当課
2	西尾市民病院の病院経営について 〔福地南部〕	<p>【質問】</p> <p>西尾市民病院は19年間にわたり赤字経営で、碧南市民病院との統合が検討されていると広報紙に載っていました。しかし答申では、「碧南市からの条件付き協議は応じるべきではない。また、2病院制が大幅な経営改善とはいかないなかでも一定程度の経営の効率化が期待できる」とされていました。市民病院の今後について、次の点について質問します。</p> <p>①今後、碧南市民病院との統合については、どのように検討が進められますか。</p> <p>②碧南市民病院の経営状況はどうなっていますか。碧南市からの補助金や助成金を除いても、安定した黒字経営で問題ない決算状況となっていますか。</p> <p>③西尾市民病院が現在の場所に移転後、5年間は創業赤字であったかと思いますが、その後の決算額（市からの補助金、助成金を除いた経営内容）は黒字でしたか。</p> <p>④19年間の赤字ですが、これまでの経営改善計画はどのようになっていますか。赤字分析や分析に基づく改善策（※）、毎年の実績の比較と計画を下回った場合の原因分析はどのようになっていますか。</p> <p>（※）</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者数及び診療点数の減少による赤字化 医師不足（医師の派遣要請） 高度な医療を行うための診療機器の導入に対する費用対効果など 	<p>1点目の碧南市民病院との統合につきましては、西尾市が碧南市に「両市民病院を経営統合し、両市で2病院体制を維持しつつ、両院で急性期医療を継続する」ことを提案したところ、碧南市から「市民サービスの向上や経営改善を図れるよう検討を開始したい」との回答がありました。したがって、両市で2病院体制を敷く経営統合案の研究を進めていくこととしましたが、両市の市民や関係団体に直接影響を及ぼす重大な案件ですので、段階を踏んで、慎重に判断していきたいと考えております。</p> <p>現在の進捗状況は、研究の進め方を話し合っている段階です。</p> <p>また、先月の26日、厚生労働省が全国の公立・公的病院のうち「再編統合の議論が必要」とした医療機関を公表しました。公表された病院に西尾市民病院は入っていませんでしたが、愛知県の公立病院では、碧南市民病院、みよし市民病院、津島市民病院、あま市民病院が該当していました。特に碧南市民病院とは、あり方や医療連携に関する協議を行っているため、今後、国の動向を注視していきたいと考えています。</p> <p>2点目の碧南市民病院の経営状況につきましては、西尾市民病院と同様、碧南市からの補助金を含めても、赤字決算となっております。平成30年度の純損失額については、西尾市民病院が7億5千343万7千362円、碧南市民病院が10億8千202万702円となりました。</p> <p>3点目の現在の場所に移転新築後の経営状況に関しましては、市からの繰出金を全て除きますと、平成2年2月の移転・開院当初から現在まで赤字となります。</p> <p>しかしながら、繰出金には、本来、市が負担すべきと国が定めた金額、いわゆる繰出基準が含まれておりますので、これを加えますと、平成8年度から平成10年度までは、黒字となっております。</p> <p>4点目のこれまでの経営改善計画としましては、平成21年3月に西尾市民病院改革プランを策定、平成27年3月に西尾市民病院中期計画を策定、中期計画を補完する目的で、詳細な取り組みを定めた西尾市民病院改革プランを平成29年3月に策定しました。</p> <p>患者数及び診療点数の減少による赤字化の要因につきましては、主に医師不足によるものと考えておりますが、医師配置の人事権を持つ大学医局や地域枠の権限を持つ愛知県保健医療局を訪問し、当院の状況やこの地域における当院の必要性などを説明し、医師派遣を依頼することが大切であると考え、平成30年度も24回訪問するなど、継続的に取り組んでおります。</p> <p>また、民間紹介業者を利用した当直代務医師の採用、愛知県や民間企業が開催する臨床研修病院合同説明会での当院と奨学金制度のPR活動、奨学金制度を利用した研修医の確保など、医師確保の可能性のあるものには、積極的に取り組んでおります。</p> <p>高度な医療を行うための診療機器の導入にあたっては、病院収益の向上や患者数の増加が見込めるものや、安全性が増すもの、また、人員削減に繋がるものなどを選定基準としており、医師や技師、看護師等で構成される医療機器等選定委員会で決定しております。</p>	市民病院管理課

10/10 福地地区 令和元年度「市長と語る市政懇談会」意見・質問等一覧〔事前提出分〕

整理 番号	事前意見・質問等（題名） 〔 〕内は意見等の提出があった小校区	（内容）	【回答】	担当課
3	福地地区の道路 〔福地南部〕	<p>【質問】</p> <p>福地地区から名古屋方面に移動する場合に道路や電車、バスなどの公共交通に不便を感じています。また、特別養護学校の整備など、これからの道路整備などについて伺います。</p> <p>①須脇町東の岡崎一色線は市子町では計画道路の形が表れています。名鉄の踏切は道路に対し高架式の立体交差にする予定ですか。また、いつ頃、完成予定ですか。</p> <p>②徳永富田線は市子町地内で止まっていますが、完成予定はどうなっていますか。</p> <p>③安城一色線は矢田町地内で工事が進んでいますが、完成予定はどうなっていますか。</p>	<p>1点目の、都市計画道路岡崎一色線ではありますが、現在、県道西尾幸田線の南北において、2路線での整備を進めております。</p> <p>一つ目の路線は、県道から南側に向かう市道齊藤市子6号線で、これは、齊藤町の憩いの農園から市子町の県道荻原巨海線までの延長約1,500メートルの区間でありまして、現在は、用地取得を優先して事業を進めております。</p> <p>二つ目の路線は、市道須脇15号線でありまして、今年度から整備を進めている県立特別支援学校へのアクセス道路として、支援学校が開校予定の令和4年4月の供用を目標に県道から北側へ、鉄道の手前までとなる延長約280メートルの区間で整備を進めております。</p> <p>また、これより北側となる都市計画道路 衣浦岡崎線までの区間については、須脇15号線の整備が完了する前までに、路線整備が進められるよう計画してまいります。</p> <p>鉄道との交差方法につきましては、立体で交差させる場合、多額の施工費用を要することから、踏切のある平面での交差を含め、名古屋鉄道との協議を進める予定をしております。</p> <p>完成までには、しばらく時間がかかりますが、早期完成に努めたいと考えております。</p> <p>2点目の、都市計画道路徳永富田線につきましては、愛知県が整備を進めている路線でございます。現在は、主に用地取得を実施している状況であり、用地の取得率は、約45パーセントとなっております。</p> <p>今後につきましては、残りの用地取得を進めるための予算確保に努めて行くと同っております。</p> <p>3点目の、上矢田町地内の都市計画道路安城一色線につきましては、近年、北浜川西側では、阪部工業始め活発な企業進出が見られるため、進出企業の物流活動および周辺地域の交通の円滑化などを図る対策として、安城一色線の計画用地の一部を市道として整備しておりますが、将来的には、愛知県が整備をする予定となっております。</p> <p>現在、安城一色線は、愛知県におきまして、上町周辺の延長約1,200メートル区間と一色町の諏訪神社から南へ約300メートル区間の整備が進められておりますが、今後の具体的な整備区間や事業実施時期などは定まっていない状況と同っております。</p>	土木課

10/10 福地地区 令和元年度「市長と語る市政懇談会」意見・質問等一覧〔事前提出分〕

整理番号	事前意見・質問等（題名） 〔 〕内は意見等の提出があった小校区	（内容）	【回答】	担当課
4	西尾中央幼稚園の認定こども園化事業（新規） 〔福地南部〕	<p>【質問】</p> <p>①西尾市内の3歳未満の待機児童数は、令和元年度で何人か。また、令和5年度までの待機児童の見込みはどうなっていますか。</p> <p>②若い世代の親による送迎の負担を考えた場合に、対象となる3歳未満の児童の定員を増やす必要がある地区に、教室や職員を増やす方が効果的と考えますがどうですか。</p> <p>③今回の新規事業は、国からの補助金などを目的とした戦略的な事業なのですか。同じ予算額で、既存の市立保育園内に、3歳未満の児童を対象とした第二保育園を増設してはどうですか。また、教室増設に合わせ保育職員を増やしてはどうですか。</p> <p>④こども園の園長や保育職員の人事管理、施設・設備の管理は、既存の市立保育園とどう違いますか。</p> <p>⑤こども園職員の身分は西尾中央幼稚園の職員とは異なると思いますが、既存の市立保育園の職員と給与や待遇は同じになりますか。</p> <p>⑥事業が実施された場合、西尾中央幼稚園は幼保連携型認定こども園となりますが、認定の前後で県や市からの補助金はどう変わりますか。</p>	<p>1点目の令和元年度の待機児童はありません。また、令和5年度までの待機児童につきましても、令和3年度に民営化する西野町保育園やその他民間保育園の建替え等の際、3歳未満児の受入れを増員していく予定であることから、発生しないと見込んでおります。</p> <p>2点目の3歳未満児の定員を増やす必要がある地区は、旧西尾地区と考えています。しかし、児童福祉施設の設置及び運営に関する基準において、児童1人当りに必要な部屋の面積や園庭の面積の基準があることから、旧西尾地区の保育園の敷地に教室を増やす計画は、現段階ではありません。</p> <p>3点目の西尾中央幼稚園のこども園化は、運営法人の意向によるものです。認定こども園へ移行するにあたり、園舎を増築しますが、その建設費は国の補助金がありますが、市が建設する公立園の園舎は補助金がないため、全額市が負担することになります。</p> <p>4点目、こども園は、認定こども園法に基づき認可されます。幼稚園保育園の両方の役割を果たすため、職員は、幼稚園教諭の免許状と保育士資格を有することとされています。職員配置基準や施設・整備の管理につきましては、差異はありません。</p> <p>5点目、西尾中央幼稚園は民間経営ですので、就業規則や給与規定などは運営法人で定められますが、給与等につきましては、市単独の補助により、市立保育園の職員と基本的には同じレベルとしております。</p> <p>6点目、西尾中央幼稚園は、現在は私立幼稚園ですので私学助成として、国、県から補助金が交付されています。認定こども園に認可された場合は、民間保育園同様、定員や児童数に応じた公定価格により施設型給付費を国、県及び市が負担します。</p>	保育課
5	観光客が行きたくなる施設 〔福地南部〕	<p>【提案】</p> <p>蒲郡市にはラグーナテンボス、碧南市には水族館や明石公園、安城市にはデンパーク、岡崎市には岡崎城など、付近の市町村を始め他府県から人が訪れる施設があります。</p> <p>西尾市内には一色さかな広場、こどもの国、道の駅にしお岡ノ山、稲荷山茶園公園、西尾歴史公園などがありますが、まだまだ、他の地域から多くの観光客が来ているとは思えません。</p> <p>これらの既存の施設を改修や拡充して、観光客が行ってみたいと思える場所を作ってみてはどうですか。</p>	<p>一色さかな広場の隣に今年6月に新規にうなぎを食することができるレストランとして、一色うなぎ漁業協同組合直営の「うなぎ処 いっしき」がオープンして、今まで以上に西尾の魅力を体感することができる観光エリアとなりました。</p> <p>西尾市歴史公園では、現在、二之丸丑寅櫓と約50メートルの屏風折れの土塀の復元工事を進めており、西尾城跡の魅力を高めてまいります。令和2年の祇園祭の前には完成予定です。</p> <p>道の駅「にしお岡ノ山」につきましても、駐車場不足という問題を抱えており、より多くの方にご利用していただけるよう駐車場整備を検討してまいります。</p> <p>現在、観光名所や観光施設を効率よく楽しく回っていただけるモデルコースがありますが、今回整備された施設を更にPRし、観光客が訪れてみたいと思える、魅力ある施設整備に努めてまいります。</p> <p>なお、参考までに、平成30年の愛知県観光入込（いりこみ）客数統計調査による来場者数は、ラグーナテンボスは約274万6千人、碧南海浜水族館は約13万人、明石公園は約24万3千人、岡崎城は約18万4千人でありました。本市の一色さかな広場は約71万5千人、こどもの国は約33万7千人、道の駅にしお岡ノ山は約48万8千人、西尾歴史公園は9万4千人でありました。</p> <p>ラグーナテンボスを除いては、本市との観光施設の来場者数に大きな違いはございませんでした。</p>	商工観光課

10/10 福地地区 令和元年度「市長と語る市政懇談会」意見・質問等一覧〔事前提出分〕

整理 番号	事前意見・質問等（題名） 〔 〕内は意見等の提出があった小校区	（内容）	【回答】	担当課
6	憩いの農園付近の開発 〔福地北部〕	<p>【質問】 以前、憩いの農園付近の開発について話が出ていましたが、計画はどうなっていますか。現在の進捗状況や周辺の道路整備などはどうなっていますか。</p>	<p>【農林水産課】 現在は、JA西三河が考える憩いの農園を中心とした新たな活性化策の実現に動き出しており、JA西三河がランドデザインを検討している状況であります。 今後、ランドデザインが策定されましたら、その計画の実現に向けて協議してまいります。</p> <p>【土木課】 また、憩いの農園の周辺道路の整備につきましては、農園北側の県道西尾幸田線を軸にした整備を考えており、先の質問で、説明いたしましたとおり、都市計画道路岡崎一色線を2路線に分けて、整備を進めている状況であります。 また、農園南側を東西に走る市道熱池横手線においては、水路の一部暗渠化による道路拡幅整備を計画しておりますが、その他に具体的な整備計画がある路線はございませんので、今後、策定される開発計画と調整の上、関係機関との協議を含め、整備方針などを検討してまいりたいと考えております。</p>	農林水産課 土木課
		<p>また、特別支援学校が建設されると聞いていますが、市としての計画や進捗状況はどうなっていますか。</p>	<p>【教育庶務課】 現在、憩いの農園の北側の須脇町地内で、特別支援学校の建設が進められておりました、事業主体は愛知県で、県立学校として整備を行い、管理・運営するものでございます。 新設校は、県下で初めて知的障害と肢体不自由の両方に対応し、小学部、中学部及び高等部を備え、児童生徒数は240人程度の規模と想定されておりまして、通学区域は、西尾市、碧南市及び安城市が予定されております。 今年度から建設地の造成工事に入り、令和4年4月の開校に向けて、準備が進められておりますが、長年熱望されていた特別支援学校ですので、西尾市教育委員会としましても、本市の子どもたちのためにも、少しでも良い学校とするため、県教育委員会ともしっかりと連携していきたいと考えております。</p>	教育庶務課

10/10 福地地区 令和元年度「市長と語る市政懇談会」意見・質問等一覧〔事前提出分〕

整理 番号	事前意見・質問等（題名） 〔 〕内は意見等の提出があった小校区	（内容）	【回答】	担当課
7	志を持ってふるさと西尾に生きる若者の育成 〔福地南部〕	<p>【提案】</p> <p>令和の日本は、団塊の世代が後期高齢者の年齢となり、急速に75歳以上の人口が増加すると思います。西尾市でも同様な状況が予想され、その事が西尾市の若い世代の活力に影を落としエネルギーを減衰させて行くと考えます。</p> <p>そこで、西尾市の医療、福祉、サービス業、ものづくり、伝統的産業、農業など、産業や各分野の将来を担い、志をもってふるさと西尾に生きる若者を育成し、増やしていく事を目的に新たな奨学金制度を創設してはどうでしょうか。</p> <p>例えば、応募資格や選考方法を次のようにしてはどうでしょうか。</p> <p>①西尾市内に居住していて、経済的に困難な家庭に育ち、市内の県立高校に学ぶ高校3年生を対象とする。</p> <p>②市内の各県立高校の校長から1名の推薦を受ける。</p> <p>③選考方法は面接と課題作文（800字）とする。</p> <p>④年間25万円の給付型奨学金を大学または専門学校に通っている期間である2年から4年間給付する。</p> <p>⑤受給者は、年に2回ほど市役所で市長による面接報告会を受ける。そこで学業成績や学生生活の様子、自分の将来像などを報告し、市内関連施設での研修を受ける。</p>	<p>ご提案ありがとうございます。おっしゃるとおり、「ふるさと西尾市」の未来を担う若者をサポートしていくことは、少子高齢化の進展への対処へ寄与する重要な施策の一つと考えております。</p> <p>そのため、西尾市では、能力があるにもかかわらず、経済的な理由で修学が困難な高校生に対し、奨学金を支給する「給付型奨学金」制度を、平成30年度に新設し、実施しているところでございます。</p> <p>また、ご提案にございます大学などの高等教育に進学している学生に対しては、現在、国において、新たな修学支援制度が来年4月からの実施に向けて準備が進められております。</p> <p>国の方針では、支援が必要な低所得者世帯の方々に対して、授業料や入学金の減免制度の創設と、給付型奨学金の拡充が予定されています。</p> <p>西尾市においては、現在のところ大学などの高等教育進学対象者への新たな奨学金制度は予定しておりませんが、国の動向を注視するとともに、生まれ育った環境により教育の機会が得られず、将来の可能性が閉ざされることのないよう、全ての子どもたちが夢と希望を持って成長していける環境の実現を目指してまいります。</p>	教育庶務課

10/10 福地地区 令和元年度「市長と語る市政懇談会」意見・質問等一覧〔事前提出分〕

整理 番号	事前意見・質問等（題名） 〔 〕内は意見等の提出があった小校区	（内容）	【回答】	担当課
8	産業廃棄物処理場の建設問題 〔福地北部〕	<p>【質問】 一色町生田地区の産業廃棄物処理場の建設問題の現状や今後はどうなっていますか。</p>	<p>一色町生田竹生新田地区における産業廃棄物処分場問題につきましては、放置された産業廃棄物最終処分場問題と、新たな産業廃棄物処分場問題があります。</p> <p>平成25年7月に、三重県の事業者から、放置された産廃最終処分場跡地の無害化と併せた最終処分場の建設計画が提案されました。その後、事業者は計画地の用地買収を進めていますが、施設設置に向けた申請手続は進められていません。</p> <p>それでは、産廃問題の現状と今後について説明いたします。</p> <p>まず、放置された産廃最終処分場問題につきましては、有識者や地場産業代表者、そして住民代表で組織する産廃跡地問題地域会議を設置して検討を進めてきました。検討結果につきましては、「跡地周辺の生活環境や自然環境に対して監視体制を強化して対応すること」との提案を頂き、現在、県と市が連携して水質や大気などの調査を実施し、併せて調査結果の検証を行っています。なお、調査結果につきましては、異常は確認されておりません。</p> <p>一方、新たな産廃処分場問題につきましては、有識者による影響調査研究会を設置し、今回の計画におけるメリット・デメリットについて研究しました。</p> <p>その結果、経済的なメリットは非常に薄く、一方、デメリットについては、市民の生活環境や、計画地に隣接する一色中学校を始め、周辺の保育園や小学校への教育環境も影響が考えられます。また、地場産業への風評被害、南海トラフ地震によるリスクなど、多方面にわたる悪影響が指摘され、「今回の産廃処理施設の建設は回避されることが望ましい」との研究結果が報告されました。</p> <p>私は、この研究結果を受け、施設設置申請に対して許可を出さず愛知県知事に、今回の計画には許可を出さないよう要望しました。</p> <p>また、研究会からは、併せて、市独自の条例整備に対しても提言を受けていますので、産廃建設に対して民意を反映することが可能な条例を今年5月1日に整備しました。</p> <p>今後も市としましては、一色町生田地区への新たな産廃処分場の建設には、一貫して反対してまいります。</p> <p>最後に、市は、今回の産廃処分場の問題について、市民に広く周知するため、解説する動画を制作しました。手続完了後、ホームページで公開してまいりますので、ぜひご覧頂き、市民の皆さんによる反対活動にもご理解とご協力を頂きたいと思っております。</p>	環境保全課